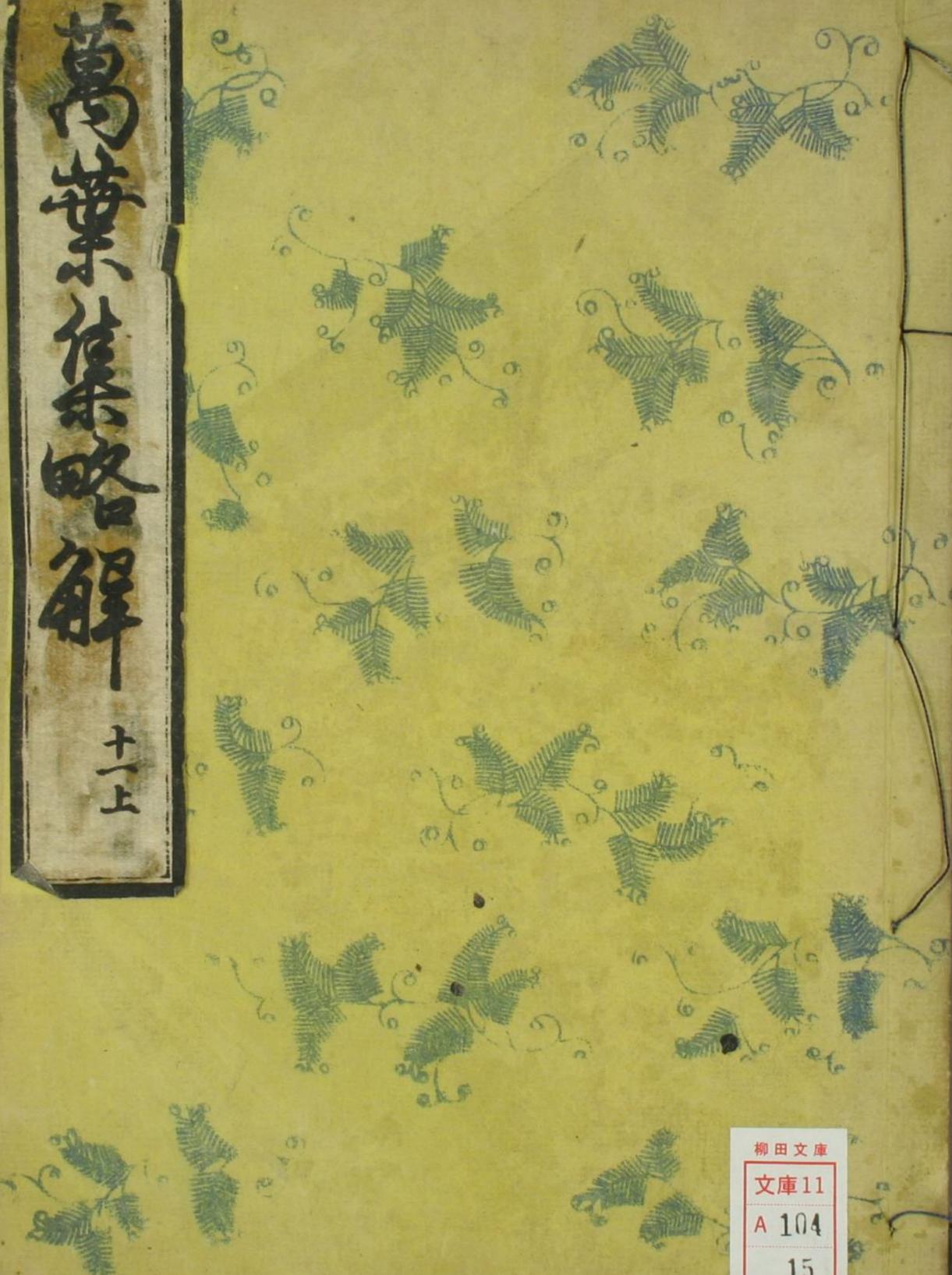


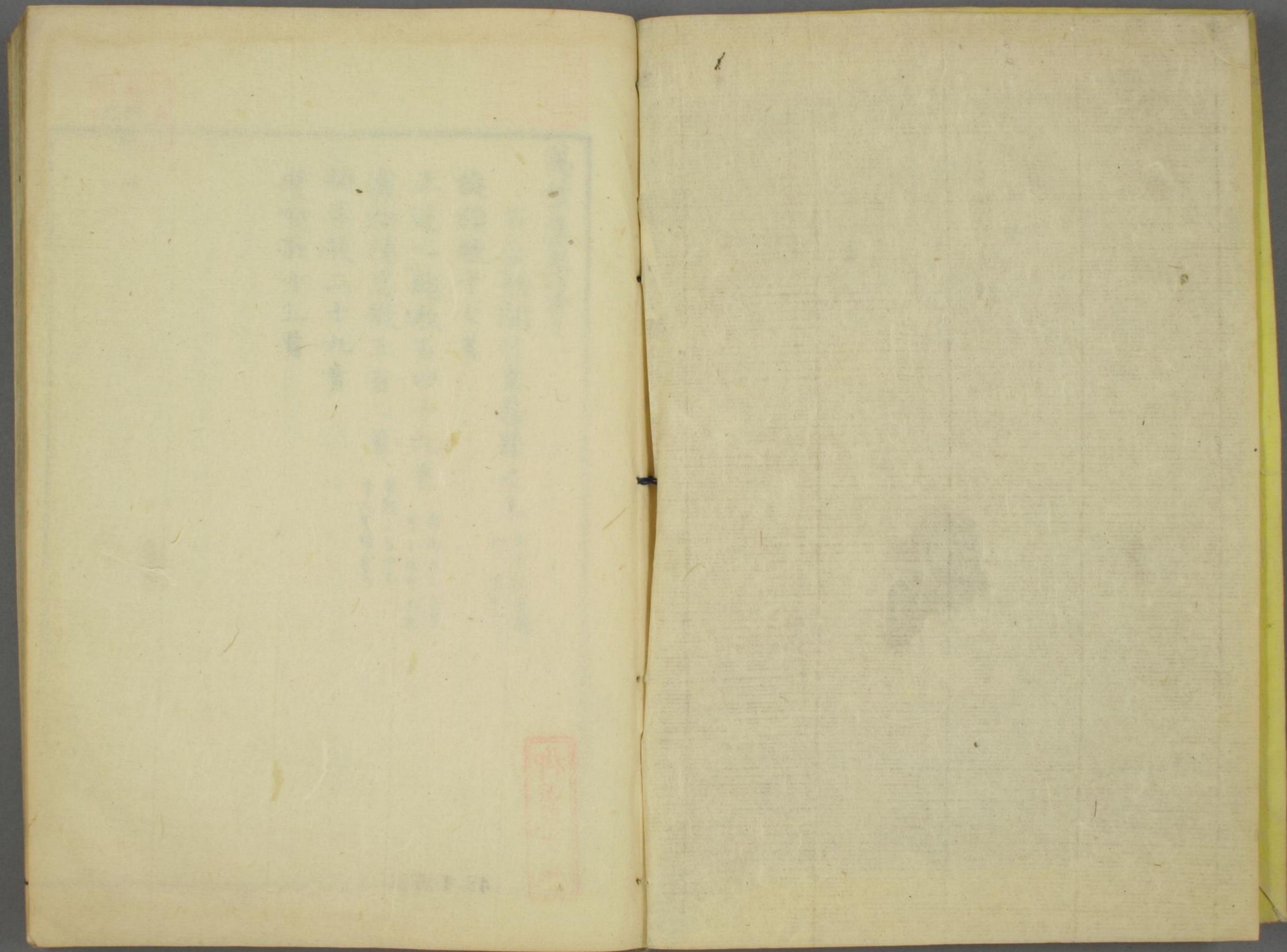
萬葉集略解

十一上



柳田文庫
文庫11
A 104
15







萬葉集卷第十一

古今相聞往來歌類之上

古今往來類
の三字あり

旋頭歌十七首

正述心緒歌百四十九首

并歌百三十首
十九首不曼

寄物陳思歌三百二首

并歌三百四首
三首附世り

問答歌二十九首

譬喻歌十三首

文庫 11
A 104
15

萬葉集卷第十一



48 10653

命とよまきりんとほろりて何のせん

息緒吾雖念人目多社吹風有數數應相物

いきのきよまこれにむくひとめおひみこりふかばあはるま

しごあつてまのき

つたよまのまけまふまひふりまはく風まふま

いりてまをりて

人祖未通女兒居守山邊柄朝朝通公不來哀

ひのおやのまめこまあまらむあまらむあまらむかよひ

あこねがまも

よハ希りてま十三の法室山とほア守山とあると何く

神南備山をりてま此山邊とまこりまをりてまをりて

蘇門答臘のこころを蘇門答臘のこころを蘇門答臘のこころを

天在一棚橋何将行穉草妻所云足莊嚴

あめまらひとたまりいそゆりわらまのつまづるといふあゆ

いまらくを

あめまらわらまの地何棚橋にむままをりてまをりて

せまらて池川の原原まにほまらまらまはまらとゆらま

ままらちまらぬま一棚橋にま後まらぬまらまらまら

卒のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

いのまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

臂能古輪橋とよめまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

入所 之 歎く こと あり 悲つ こと あり 宜き 所 寐 ぬ こと あり 河 へ 入 所 の を 渡 り ぬ こと あり こと あり

或本歌云公矣思雨晓来鸭

戀死戀死耶玉梓路行人事告兼

こいし 恋死 恋死 耶玉 梓路 行人 事告 兼

わが この 枕 詞 道 人 へ 告 ぐ 事 也 け づ け ぬ こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり

昔 こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり

心 千 遍 雖 念 人 不 云 五 口 戀 嬢 見 依 鴨

是量戀物知者遠可見有物

こころ 千 遍 雖 念 人 不 云 五 口 戀 嬢 見 依 鴨

上 三 白 こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり

是量戀物知者遠可見有物

か げ ば こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり

何時不戀時雖不有夕方狂意無之

いつ とき 不 戀 時 雖 不 有 夕 方 狂 意 無 之

いつ とき 不 戀 時 雖 不 有 夕 方 狂 意 無 之

之 為 の 語 事 人 次 下 三 語 活 の 下 四 語 活

無 事 一 本 無 為 と あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり

ふ け こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり こと あり

と こと あり

是耳寔度玉切不知命歳經管

かみ の み じ 度 玉 切 不 知 命 歳 經 管

かみ の み じ 度 玉 切 不 知 命 歳 經 管

かみ の み じ 度 玉 切 不 知 命 歳 經 管

たまぬれ又かきとまらぬれと公のうらみはべし殿のこころ

公目見欲是二夜千歳如吾戀哉

キミのめをみまほりてふあふよちとせのこころはわらふか

打日刺宮道人雖滿行五日念公正一人

うちひやくみやぢをひとみちゆげどわがまきまひたひらとのみ

みやちひやくみやぢは人のまよふと云は唯也

世中常如雖念半手不志猶戀在

よのなかのうねがくのふとれどもわらわれずかたこひも

なごはえりしうらみ世の中かたこひはひらけりしをいそぐれと

いわれて又修しとくれども半手の手はまのそめちしうは

言の下みまうたと河原をう梅入るをまきまはる例るれ半手

をり、在はけりしとまらぬれ

我勢古波幸座遍来我告来人来鴨

わがせこはきまうくいますとがうまうわれつげらんひとのぬら

遍来はうらみしははらへりしと適衆とまうたあはれしと

不來鴨しとまうと不と思まうる例集手まきまはる宮を

そはまの程かうと思つてあかうる

麩玉五年雖經吾戀跡無戀不止恠

あはたまのいつせわれどわらうるまきまひたひらとのみ

まきまひたひらとのみは同形跡のそめちしうは

石尚行應通建男戀云事後悔在

いそがしうらみはべしはまきまはる例るれ半手

羞と押ふ海をさそく終ぐんくの健男とりつて建ハ健と首さちるる

日位人可知今日如千歳有與鴨

ひくれるびいと志すぬべーけのいのちもせのこもあつたやぬのも

位拾種お低ま飛ささよととて日暮るく却て人目まふものよとて

この日ハるあめのみくもあれうとわづよちるべー位ハ並のほろく

ひまへてちんちんあつたれどまづく一ちよるくこの世にこ

の保よくさそものとのさそふ交信の不と思ふさそふまづく

いへるさそぬういあれうとけしん

立座態不知雖念妹不告問使不来

たちあはるわづもまづさぢあはるいふふしげなまづくのさそ

立座まづわづもまづさぢあはるいふふしげなまづくのさそ

おれまづまづわづもまづさぢあはるいふふしげなまづくのさそ

せねばはさそくあはるいふふしげなまづくのさそ

烏玉是夜莫明朱引朝行公待苦

ぬだうまのこのあまあけさあひくあはるいふふしげなまづ

ぬだうまのあひくあはるいふふしげなまづ

憲為死為物有者我身千遍死反

いふふしげなまづわづもまづさぢあはるいふふしげなまづ

まづわづもまづさぢあはるいふふしげなまづ

まづわづもまづさぢあはるいふふしげなまづ

玉響昨夕見物今朝可憲物

たまゆらふこのあゆべーのまづあはるいふふしげなまづ

まづわづもまづさぢあはるいふふしげなまづ

まづわづもまづさぢあはるいふふしげなまづ

年切及世定時公依事繁

たまきつるものやうきあつたのしんせきんがようていこのしんせきん

年ハ玉のほへよふまお切くうたまころの地河を極るもあつてあつて

て、たのよやまのころいふもあつてのハゆき

朱引秦不經雖寐心異我不念

あつていふはしよれぬてねいころをけはににわむたのよ

あつていふはしよれぬてねいころをけはににわむたのよ

伊田何極太甚利心及失念戀故

いでのいふねところのよところののうとるまてかむらんのゆき

いでのいふねところのよところののうとるまてかむらんのゆき

大船よまめりまてぬきて極太甚一年あつていふよとつてねいころと

戀死戀死哉我妹吾家門過行

こいしなまむいしとまねがふいしとこいしとこいしとこいしとこいしと

よふとこいしとこいしとこいしと

妹當遠見者恠吾戀相依無

いとこのあつていふとこいしとこいしとこいしとこいしとこいしと

いとこのあつていふとこいしとこいしとこいしとこいしとこいしと

いとこのあつていふとこいしと

玉久世清河原身後為齋命妹為

たまきつるものやうきあつたのしんせきんがようていこのしんせきん

たまきつるものやうきあつたのしんせきんがようていこのしんせきん

たまきつるものやうきあつたのしんせきんがようていこのしんせきん

まゆねがきりさきまひいもよけまふちやうじよんしんおのりおのり
男の嫁許りて嫁を對していつるよよ嫁の宿しんちまきんしんすはれんて
未だ二日て十一日ついでとてきんきんきんきんきんきんきんきんきん

君意浦經居悔我裏紐結手徒

きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん
徒の倦のほろんゆつてたゆいと判べしき十二まわりのとの信の
解もとてたゆいと判べし悔のほろんあやうりきんきん

璞之年者竟行敷白之袖易子少忘而念哉

あつたまのいまつねきんたへのそでえいことわされてゆりん
白のふ布く妙の子候ももん袖易いよと交り付し神とよめえ交れり
あつまつ神とてつていよあえん馬れてきんやん改まつちんきん
やうりん少とゆ解のあまの宿しん卒の候ももんきんきんきんきん

之ハ為
ノ誤

紐ヲ
ニ誤

それゆゑにこれなりん

白細布袖小端見柄如是有戀吾為鴨

あつまつのそでまはのくみりんのうらみきんきんきんきんきんきん

本早
まき七よ小端をきんきんきん

我妹意無之夢見吾雖念不所寐

わが妹いふこいもむちあひめさみんとあれは甘んどのねらえちんくふ

之ハ為の子のほろもべしき十三きんきんは名鷹、きんきんきんきん

非は弁を利とていん由命来吾意哉

故無五重紐令解人莫知及正逢

ゆありもくわのきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん

ちんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん

もくと人はまてんちん

是川水阿和逆纏行水事不反思始為

この川のみなこせのまもゆゆくみづのこころかへさしきしめられ

水の阿和の乃阿の偽をあらはしををわらふてし逆を流し阿川のゆく
一こい思ひそめくそせられいひゆるるもさしきしめられし事ハ言の
ことさし及ハ愛のほろくこころかへさしきしめられ

鴨川後瀬静後相妹者我雖不今

かしのすめらちせきつげくのちもあにいほまされよまもあしきとし

山塚の静のゆき他を時りしそまされし定めし後瀬下は
瀬といふ川後とらあし阿とこはとといんるこころさつ下つ瀬の静の
ちとこいそくはと静はあしこころいさしきしめられし事ハ言の
しひゆるるの後もあしこころいさしきしめられし事ハ言の

言出云忌忌山川之當都心塞耐在

こころいさしきしめられし事ハ言の
そめらちせきつげくのちもあにいほまされよまもあしきとし
けりともよむハよすはあしきしめられし事ハ言の

水上如數書五命妹相受日鶴鴨

みづのうへにかどしうくこころわりのちいふありんこころいさしきしめられし

物の教とあしきしめられし事ハ言の
教ハ一二三の教とりのも涅槃経ハ是身無常こころ如畫水隨書
隨合とあしきしめられし事ハ言の
紀ハ祈と阿と

荒磯越外往波乃外心吾者不思戀而死鞠

あしきしめられし事ハ言の
あしきしめられし事ハ言の

此ハ儲溝方コまこめやとしちのめくあしきしめられし事ハ言の

淡海海奥白浪雖不知妹所云七日来

あつみのみおまらきしつたみきつねよはらうといふたぬのこころん
とハきわたりとらん序そのおまらきつねよはらうといふたぬのこころん
をす越すまらきとらんといふたぬのこころん
七ハ教まきとらんといふたぬのこころん
たふこまきとらんといふたぬのこころん

大船香取海温下何有人物不念有

おやねのがらあらみおいらあいらいなるるいなるるのいなるる
大船の相河下徳の香取の海にあれば、きつてつこふの舟のきりきりなるる
の香取の浦ゆこふきりきりなるるいなるるのいなるるのいなるる
かきとらんといふたぬのこころん
抄四聲字苑云海中に石殿舟曰碇和名伊加利此舟のいなりと重名といふなり
奥藻隠障浪五百重浪千重敷敷徳度鴨

おいらいなるるのいなるるのいなるるのいなるるのいなるるのいなるる
人事暫吾妹繩手引従海益深念矣

ひとごころんといふたぬのこころん
人の知らぬいなるるのいなるるのいなるるのいなるるのいなるる
淡海奥島山奥儲吾念妹事繁

あつみのみおまらきしつたみきつねよはらうといふたぬのこころん
此書のもよとのちと奥同徑面とて載り海とてなるるのいなるるのいなるる
なりよはらう神名帳近江蒲生郡奥津島神社よりなるるのいなるるのいなるる
おいらいなるるのいなるるのいなるるのいなるるのいなるるのいなるる

かゝるくもよほまをりんとよとを

香山雨雲位桁曳於保保思久相見子等卒後急牟鴨
かぐやまふくわおたまびすおりーあひそーころとのちいんかし

桁ハ棚の後の上ハおりーくといん序のこおりーくハおつのまぐん

三後ヲ被

雲間後狭經月乃於保保思久相見子等卒見因鴨
とひまよわさわしつこのおほしーあひそーころをみんよしもがし

とに序へまわつものまの復

天雲依相遠雖不相異手枕吾纏哉

あまがうのよあひそみあぶとあぶーたまうわれいまのめ

とまのめはうてま令ごまといは法句あれましくもよは行ー

かしかそのこと

追ハ進

雲谷灼發意追見乍為及直相

万解十一上 廿二

くわさよまきくたわわくさあふつーらんたふあふまうで

追ハ進の法為ハ居の法るんーまきさうまは西のまといちくく

それるんまきさその法あまうつーんまき月記建王うせあひ

の内あま伊磨紀那屢とむれあふくたふまうーたふまうのまげん

まはま山と横さるまのいちくく

春楊葛山發雲立座妹念

なるやあまかづーまよまふたふたふらあてんまきーおま

まはまのまは楊の葛の下木のらあまのまのまの

春日山雲座隱雖遠家不念公念

かまのやまごわおんらうてほげしーいおままみとーおま

これハ様まま人の様まま女まままままままままままままま

もかーしー

下伍解 ぎくまくと

遠妹振仰見惚是月面雲勿棚引

とかつまのちりさけみつゝまのさくのみまのおぼろくをなむと

海女ぬきうま月のつたのみまめりれると

山葉追出月端端妹見鶴及癒

やまのうばといつづきのをらふまをぞみつるこしむあてふ

山のそこの端の山ははらうまのまのつたのまをよつと

いそん席のまをまの追の照のほまをいづつと次のちと合せると

及後のほまのちこしんつとよまわるとまを後癒年略

いづつをぬきへ

我妹吾矣念者真鏡照出月影所見来

わが妹いづつわれとわらうまをがみとわづらひのかけはまを

は頼りのまを頼りのまをたのまつとわづらひのかけはまを

久方天光月隱去何名副妹惚

いづかこのあまのつまをかくれいぬかみまをくはまを

月と妹がるまをかくへん

若月清不見雲隱見欲宇多手比日

みづきのさやもみまをかくらみまをかくらみまをかくら

妹まをかくらみまをかくらみまをかくらみまをかくら

もまをかくらみまをかくらみまをかくらみまをかくら

かく改まらうとまをかくらみまをかくらみまをかくら

我背兒爾吾戀居者吾屋戸之草佐倍思浦乾来

わがせこふわがこしをわがわがのこしをわがわがのこし

此の飛の信らふし、こゝろとよむ

念餘者丹穗鳥足沾来人見鴨

おひつりあまつりいふあはれこのあつりいといとみらんのも

川とかちやうくすまふよのころを懐くいつくあしとあとのよら

まよふゆきのまづさしうと人足らんもいよあまをそそき十四安を由

年古麻地くよみれば沾ハ腦の字の信らふ、あまやみくといふといふ

高山岑行空友衆袖不振来志念勿

たのやまのみねゆく志のこしとおひつりいといとみらんのも

とい友とおひつりいといとみらんのもいよあまをそそき十四安を由

らささしといとみらんのもいよあまをそそき十四安を由

つうくといとみらんのもいよあまをそそき十四安を由

天船真楫鬘拔榜間極大戀年在如何

万解十一上 三十一

おひつりあまつりいふあはれこのあつりいといとみらんのも

本はたといあつりいふあはれこのあつりいといとみらんのも

ゆきまのいふあはれこのあつりいといとみらんのも

いでい子極大甚とあつりいふあはれこのあつりいといとみらんのも

足常母養子眉隱隱在妹見依鴨

たらちねのけのいふあはれこのあつりいといとみらんのも

かつこ、和名抄蠶 和名加比古一訓古加比良 虫吐絲也、説文云蠶 和名 蠶夜也、五由 蠶夜也、そ十二 蠶

令回しきこのうらひ、いふあはれこのあつりいといとみらんのも

肥人額髮結在染木綿染心我忘哉

うまひといふあはれこのあつりいといとみらんのも

うまひといふあはれこのあつりいといとみらんのも

と顔まけ信らふし、こゝろとよむ

春ハ吾の候ハこれハ... 真鏡手取以朝朝雖見君飽事無

夕去床重不去黃楊枕射然汝主待固

解衣戀亂尔浮沙生吾戀度鴨

字... 何の候も... 射... 解衣戀亂... 夕去床重... 真鏡手取...

梓弓引不許有者此有戀不相

事靈八十衢夕占問占正謂妹相依

玉梓路往占占相妹逢我謂

たまがののみちゆき... 玉梓路往占占相妹逢我謂

たまたまの... 玉梓路往占占相妹逢我謂

そしちと申占ふ夕の影もまゝに往來の人のぬきまゝに
形もまゝに叶ふをぬきまゝに流るるに
ゆり占ふにりて我のうつるに
ゆり人のまゝにやうに占ふのまゝに

問答

皇祖乃神御明乎懼見等侍従時爾相流公鴨

まゝに占ふのまゝにみよとがくみよとまゝにまゝに

神のみよと相流とまゝにまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

つるに占ふとまゝにまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

蜻蛉眼

真祖鏡雖見言哉玉蜻石垣淵乃隱而在嬾

まゝに占ふのまゝにみよとがくみよとまゝにまゝに

かまゝに占ふの相流と限とまゝに占ふの相流の相中のみよと

隠れまゝに占ふのまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

滑り滑

右二首

赤駒之足我扱速者雲居爾毛隱往序袖卷吾妹

あのごまのあごきとやけだつてあごまかくれゆくぞ

遠さちへ移る人ともある時ある人ま三赤駒のあごきと

まごきとまゝに占ふのまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

まごきとまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

隱口乃豐泊瀬道者常滑乃恐道曾戀由眼

こわくくのまゝに占ふのまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

滑り滑り隠れまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

かここればまゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

まゝに占ふの相流と侍従と女のみよと

母よりちしせがまのびてせしむ親の爲にうれはふらねしや
あがまするんしんりあはしやん

獨寝等菱朽目八方綾席緒雨成及君乎之将待

ひとりねとくしんちんあやむるをよめるもてふまことしん

宿めるとくのまゝ菱の積りゆく中まの席は庭ゆく上重くそのまの後の

庭はそこまられて編供のまぬも中まの積りゆく朽れゆくれは

妻子とまぬせしんといつても取れぬまの寝つて宿るといつはむら

は後捨等後捨垣ちの後のまのぬくて蒲と後し儼するまを

相見者千歳八去流否乎鴨我哉然念待公難爾

あひみてちとせしめふまのむれやまのむれやまのむれやまのむれやま

いるとのまのむれやまのむれやまのむれやまのむれやまのむれやま

後し本朝臣入麻呂集出也

ねど、君と宿めふらうまのまのむれやまのむれやまのむれやまのむれやまの

まのむれやまのむれやまのむれやまのむれやまのむれやまのむれやまの

振別之髮乎短彌青草髮雨多久盪妹乎師曾於母布

ふらわけのかみとくがむらうのくまをかみよたくとくをむら

振ふ髪はむらうの八年まで髪のをと肩まうて切く頂よりあ方かき

まけくまのむらうのまのむれやまのむれやまのむれやまのむれやまの

まのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうの

まのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうの

まのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうの

まのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうの

まのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうの

ぬれしむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうのむらうの

徘徊往箕之里爾妹乎置而心空在土者踏鞢

たれほつゆきみのさるにゆきとおまろくころころつちのちあめども

と徘徊と下よまを往と住とせむと誤くゆきみの里づくあまれれり考

たれほつゆき十二は末令同くまじあぢ

若草乃新手枕乎卷始而夜哉将間二八十一不在國

わづきのあいたまろくころころあめどもやへてむすあめどもあ

あまの枕何といひ違ては隣りてあまのこころ

吾戀之事毛語名草目六君之使乎待ハ金手六

わづきのあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あまのこころをいふと使まじはあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あまのこころあめどもあめどもあ

寤者相縁毛無夢谷間無見君戀爾可死

うつふあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あめどもあめどもあめどもあ

誰彼登問者將荅為便乎無君之使乎還鶴鴨

たそかれとあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あめどもあめどもあめどもあ

不念丹到者妹之歡三跡咲牟眉曳所思鴨

たそかれとあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあめどもあ

あめどもあめどもあめどもあ

如是許將戀物夜常不念者妹之手本乎不纏夜裳有寸

かくはのりこひんそのそとあしつねいものたれをまのぬよしあわき
あまそふて及よある古をよ此あこまあてき十二世間志將
改おしつねのたれをまのぬねも有さこまあのた小一云こ此
と出せりつねの見るこ

如是谷裳吾者戀南玉梓之君之使乎待也金手武

かくたれこれこひわむたまついのきみがついをまぢやか
宮まこ成人社を信人うそいつりかまゆやかてんたよ使
たよのそえさう南の梓のちんあわむむさううおよび一き十三川
つし有雙龍をいづいありうみれあまこえんそとあ
有ちみの法利こきまむまきみんそんそ又敵かこまむとよむ
なむしゆんさくさむ使しんつてくはく一そのこま平くそまの使
たよまこはうり終や垂んそんつり此はねん

本
誤
カ
之

妹戀吾哭涕敷妙木枕通而袖副所沾

いもあこいわつちあまこまここのまこつてはあてそできぬれぬ
あまここの涙るそ一古と六帖よあまこのまこをまこ

或本歌云枕通而卷者寒毋

立念居毛曾念紅之赤裳下利去之儀乎

たちてれいぬてそけりされるあのおのこをいひいよ一をさつて

此の巻後此とあまこれいとつてこり集申裳下とあまこ
とよめるゆえ

念之餘者為便無三出曾行之其門宇見爾

ねまよあまりにこのまこをまこいひそゆてそのかまこつて

まの妹つて

情者千遍敷及雖念使乎將遣為便之不知久

うらばいとおぼすけりけりもあはれむいびいひものかこころうへもい
うらばいハヤもさるそハ様もあはれもあはれもいハヤもあはれもい
但のそ解るハ家とあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
契けよあり、きせたり、あはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
昨日見而今日社間吾妹兒之幾許継手見卷欲毛
きのあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
うらばいもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
うらばいの思

人毛無古郷爾有人年悠久也君之戀爾令死
いとわのきよあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
はくと、あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
目のきよもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

人使ぬらま女とあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
人事之繁間守而相十方ハ友吾上雨事之将繁
いとごとのまげきまわりてあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
人毛のしきもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
いとごとのまげきまわりてあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

里人之言縁妻字荒垣之外也吾将見惡有名國
いとごとのまげきまわりてあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
よ、あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
まんのらまよあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
か、いとごとのまげきまわりてあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

他眼守君之隨爾余共爾風興乍裳裾所沾
いとごとのまげきまわりてあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
いとごとのまげきまわりてあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

いとたりの人目のいよとやふよとの後以奇工物戸中の君のあゆいと
ぬくも意原早く起て出つて暮し裳もそぬくもれとりつた目く思ふ
送むも草のあふるれぬれさる風つとふくもよむくかたの授け
ふりてはやくとよむべし

夜干玉之妹之黒髪今夜毛加吾無床雨靡而宿良武

ぬぐもまのいよのくろかこよいものわれなきこといよびけぬらん

馬髪とくちまひうせくぬぐもささくとまひていよのくろびけの
けいかせのゆき

花細葦垣越爾直一目相視之見故千遍嘆津

をれりあがさうよはほいとあひみこゆるちくひまぐさつ

八車人のあひ花くはくしよんくうしよひまぬくもぬと物くよ一めア
ころとりえええ基紀波那具波解依之眾能梅涅と衣通姫と登

色出而戀者人具而應知情中之隱妻波母

いろまいでいひいよとまぬくもころのうらみのこそあつまふも

ころりあがられるまといよとまぬくもころのうらみのこそあつまふも
いア

相見而者戀名草六點人者雖云見後爾曾毛戀益家類

あひみていひいよとまぬくもころのうらみのこそあつまふも

ころりあがられるまといよとまぬくもころのうらみのこそあつまふも

凡吾之念者如是許難御門宇退出永也母

おのころりあがられるまといよとまぬくもころのうらみのこそあつまふも

かこまみつハ禁裏の御門のむい安うぬぐもころのうらみのこそあつまふも

思ひくぬぐもころのうらみのこそあつまふも

将念其人。有哉。烏玉之。每夜。君之。夢。西所見。

杞りしんそひとるれやぬをくまよきとふきふのいめりみゆる

おちりしんそひとるれやぬをくまよきとふきふのいめりみゆる

或本歌云夜晝不云吾戀渡

如是耳。戀者可死。足乳根之。母毛告。都不止。通為。

かくのこゝに志ぬへたふちのめもあつつけつやまふかよふや

うけまうもてたふちのめもあつつけつやまふかよふや

あつつけつ

大ニ
大ニ
誤

丈夫波友之。勝爾名草。溢心毛。将有我衣。苦寸。

まふととこののやわさるよわさるあつつけつやまふかよふや

あつつけつやまふかよふや

あつつけつやまふかよふや

必とと重さける俗語まふとこののやわさるよわさるあつつけつやまふかよふや

あつつけつやまふかよふや

あつつけつやまふかよふや

偽毛似付。曾為何時。從鹿不見。人戀爾。人之死為。

いふそふとまふかよふや

いふそふとまふかよふや

情左倍。奉有君爾。何物守鴨。不云言此跡。吾將竊食。

こころまふかよふや

こころまふかよふや

こころまふかよふや

こころまふかよふや

こころまふかよふや

あまねのみわれはづるうつくしきてみおたまくてふれてこそこのと

終てのこゝにたゞしとせりしき義之ハ義之の信より改まらば

早去而何時君亦相見等念之情今曾水葱少熱

をゆきていつのきみとあひみんけしひらひらいまだなごぬを

君は娘をとりし水葱少熱ハ川と信のこゝにてけしひらひらの和をいふ

面形之忘戸在者小豆鳴男士物屋戀乍將居

おもがしのわをもちあはぢささあをのりわのやこいつとらん

室をもて戸は且の信よりわされてあはぢささあといふはささあ人の面形と

どれいし心のこゝに卷十四枚オモカガタノワスレハサカサカ

小豆さくはくしちねと足常とあはぢささあといふはささあといふ

このハ改まらば

言云者三三二田八酢四小九毛心中二我念奈九二

枉ハ枉
今ニ誤

こゝふいふたやまはくしとあはぢささあをのりわのやこいつとらん

身もやまはくしとあはぢささあといふはささあといふはささあといふ

入車言をあはぢささあといふはくしとあはぢささあといふはささあといふ

りしとあはぢささあ

小豆念九何枉言今更小童言為流老人二四手

あまきとあはぢささあといふはくしとあはぢささあといふはささあといふ

枉ハ枉の信より改まらば

かゝのあはぢささあといふはくしとあはぢささあ

相見而幾久毛不有爾如年月所思可聞

あひみていつくしとあはぢささあといふはくしとあはぢささあといふ

けあの初句はささあといふはくしとあはぢささあといふはささあといふ

あれハ相の上の字のあはぢささあといふはくしとあはぢささあ

石根踏夜道不行念跡妹依者思金津毛

いさねまよふちハゆりと替れどいもふよそハまぬじのぬつも

いさねとまよふ人のよめるは結白の塩まのいあぬぬ

人事茂間守跡不相在終八子等面忘南

ひとことの本げさまそるとあはれあはつづひあこらうあゆむはるん

人とのまなするをもちまうのよとてあはれほごよまると結つたせ

きんとん

戀死後何為五命生日社見幕欲為禮

こいしちるんのもちあふせんわづのちいけるいよこそみまかひつをれ

まやまきるんはハ何そんいさる日の着こそ結くと又まかひつをれと

令甲

敷細枕動而宿不所寢物念此父急明鴨

きまいたへのまきつらうこそまそいならんやそものまよしをわあなぬも

上の人麻きあはれまよハハ何きさうそあけぬうしあけぬうこそ不眠と

まよふまよふこそまきつらハ何

不往吾来跡可夜門不閉何怜吾妹子待筒在

ゆつぬこまよこんといよもまよかまよハハ何あはれわきしこまらつてあはん

まよふまよふこそまきつらハ何

